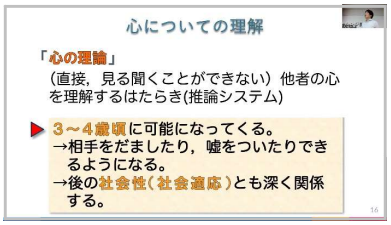
2024年度チャレンジ講座（第7回）を実施しました

9月18日（水曜日），第7回チャレンジ講座を実施しました。今回は，教育学部の向井隆久先生に「心理学で覗いてみよう！不思議な世界＝子どもの世界」と題して講義をしていただきました。

今回の講義はまず，「いないいないばあ」をなぜ子どもが喜ぶのか，という発問から始まりました。生徒からは，「安心するから」，「人の顔を認識できるようになるから」などの意見が出ました。子どもを取り巻く様々な事象にはそれぞれ背景があり，心理学とはその背景に注目していく学問であるとの説明がありました。

大人にとって当たり前のことが実は子どもの世界では当たり前ではないこと，また，それらは伝えて教え込むことができないため，子どもはそれらを遊びを通して自ら作り上げていく，というお話の中で，生徒たちは改めて子どもと大人との世界の認識の違いを理解しました。



また，「いつぐらいから心の存在に気づき始めたのだろうか？」という発問もあり，心理学ではそれについても調べるとの説明がありました。最近の研究では，1歳半くらいには心について理解するようになるが，相手の立場に立つことができるようになるのは3～4歳ごろではないか，という見解があるそうです。

さらに，3～4歳ごろから，子どもは世界共通で頭と手足で構成される「頭足人画」を描くことがわかっており，これについても様々な説があって今も議論されているとのことですが，大人とは異なる描画基準や動機があると考えられています。

高校生である生徒たちもまた，子どもほどではないにせよ，社会的慣習や常識的な見方にとらわれすぎない良い意味での未熟さや自由さを持っています。向井先生は，「その自由な側面があるからこそ，悩みやしんどさもあると思う。ただ，今感じている悩みや疑問は学問につながっていくので柔軟な心も大事にしてほしい」と生徒たちにエールを送ってくださいました。

子どもの世界をのぞくことにとって，私たちが学ぶことができることがたくさんあるのだと強く感じる講義でした。

今回のチャレンジ講座には，会場の経済学部203号室で2校29名，オンラインで21校660名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。

○普段の高校生活ではなかなか聞くことができない貴重なお話をしていただきありがとうございました。元々教育学や心理学に興味を持っていたので，さらに知識が深まりましたし，学問のことについてとても詳しく知ることができました。

○図や映像，実際の実験結果などが用いられており，直感的な理解の容易さに富んでいた。また，講師の実体験も交えられており，親近感や関心を持ち易かった。

○私は小さい子のお世話が好きなので，今回の講座の内容はとても興味深かったです。この講座を受ける前は心理学って難しそうだなと思っていたけど，分かりやすい説明で，自分で考えれば考えるほどもっと知りたいと思えました。心の理論のサリーとアンの話も実際に幼児に聞いてみたいとも思いました。参加して良かったです。

※今回の記事（講義概要）は，大分西高校が担当しました。